



どしてらば〜

いかがお過ごしですか？



できる人がいる 挑むひとがいる

Vol.59

隔月 10日発行

丸喜株式会社齋藤組

本社 〒030-0822 青森市中央二丁目2-12
TEL:017-777-3329 FAX:017-723-1796
展示場 〒030-0843 青森市浜田一丁目7-10
TEL:017-729-8832 FAX:017-762-1648
<http://www.marukisaito.com>
E-mail:tenjijo@marukisaito.com

9月にはいりました。……短い夏も終わりそうです。いかがお過ごしですか？

ねぶたが終わると、秋風が吹く と昔から言われていますが、今年はお盆が過ぎて、涼しくなってきました。

今夏は、雨が少なく、農作物が心配です。寒暖が激しいのも原因でしょうか？グリーンカーテンも枯葉がでてきて、迷彩柄になっているようです。

さて、今回は、大竹様より、丸喜齋藤組で家を見て、10数年住まれた感想をいただきました。ありがとうございます。

9月中旬の完成見学会の案内も同封します。是非ご来場ください。



令和元年度 優良工事表彰・優良技術者表彰を受賞しました 警察本部庁舎渡り廊下架替工事

2019年7月24日、令和元年度 青森県県土整備部 優良工事表彰の表彰式が開催され、丸喜株式会社 齋藤組が施工した「警察本部庁舎渡り廊下架替工事」が県内34件の優良工事表彰の中から、特に優秀な工事に贈られる、県土整備部長表彰を受賞しました。



当現場主任技術者である、当社建築土木部 齋藤部長は、同優良技術者表彰を受賞。優良工事表彰は、建設技術の向上と公共工事の品質確保の促進を目的に2008年に創設され、

「成績評価が優れている。」「新技術や新工法の活用」「困難な自然的、社会的条件を克服した。」「省力化等の創意工夫に努め、生産性向上に特に顕著な成果がある。」「安全管理への取組に特に顕著な成果がある。」「その他模範となる成果がある。」等が受賞要件となります。

今年度、全34件の受賞の中から特に優秀な県土整備部長表彰は11件(土木9件、建築3件)です。

本工事は、青森市新町にある警察本部庁舎と県庁舎を地上5階で結ぶ既存渡り廊下の架替工事です。工期 平成29年2月2日～平成30年10月31日21か月間の工事のあいだ、市道を全面占有しての工事もあり、期間中は大変ご不便をおかけした工事でありましたが、工事についてのご理解とご協力を頂いた地域住民の皆様、県庁舎及び警察本部庁舎職員の方々にはこころより感謝を申し上げます。

丸喜株式会社 齋藤組は今後も、建築主、設計者、施工者一体となり、地域社会の発展に貢献できるよう一層の努力をしていくとともに、建築の持つ可能性への挑戦、継承、そして建設技術の発展に貢献してまいります。



「よりそう家」 ～ 15年暮らして ～

大竹 辰也

この家と暮らし、15年がすぎた。暮らし始めたのがついこの間の様にも、そうでないようにも思える。よく見ると新しい頃とは違う。その違いは家も年を取ったと言えるのだろう。

床の色、壁の漆喰の風合い、引戸の薄い茶色への変化、梁のヒビ割れ、どれも15年前はなかったものだが、その風化は自然の積み重ねが作るものだろう。

新築の家にも不満はなかった。それは今も変わらない。変わった物を探せば、家への愛しが増したということだろう。その愛しは家に馴染んだと同義かも知れない。

使い慣れた道具に感ずる我が身の一部のような感覚と、似たものを、この家には覚えるのだ。

居間の大きな楓のテーブルの自分の場所から同じ風景を見ているけれど、見るごとにこの家の配置の良さに気付かされる。どここと言って奇を衒う意匠はないから、おだやかな空間と言える。そんな空間が時の流れを受け入れながら、しっとりとした色合いに変わってゆく。

設計の時からその変化を意識し、無垢の木と漆喰の壁と、床の深いこげ茶と、組み合わせられた太い梁の調和が、穏やかに年々存在感を増している。その中に含まれていると、本当に守られてると実感する。

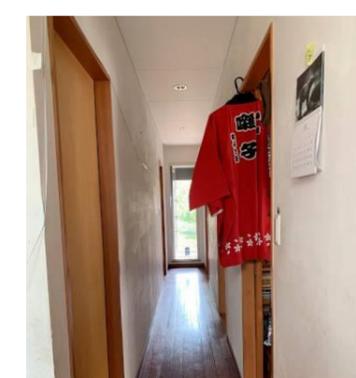
家とは何だろう。人が暮らすうつつわ。人が寛ぐ空間。人を雨風雪などから守る入れもの。色々考えられる。なかでも尊いのは、家族に寄り添い、家も共に年を取る事ではないだろうか。この家で暮らした15年の間、家への不平不満は一度もなかった。

仕事が終わって疲れた身体で入口の重い引戸を開け、玄関へ身をすべりこませ、敲きに立つ。すると、玄関から広がる空間が疲れを癒してくれるのだ。この身体を家全体が優しく包み込み、寛いだらいいよと抱き留めてくれる様に感じるのだ。

15年の間に家も私も年を重ねた。皺は増え足腰も弱くなった。家だって新しい頃の輝きを失っている。だけど、家の周りに植えた木々が大きく成長した様に、家も味わいぶかさが年々増している。

二人の孫の誕生日に記録している、居間の柱のしるしも28個になった。

この家はこれからも、住む人の日々を見守りながら私達に寄り添い、やすらぎを与え続けてくれるだろう。家も生きてると、思う。



かわいい、豆本！
ご家族の趣味で作られた
そうです。

電力を貯めて、かしく使う。

2019年の春、青森県で初めてとなる、蓄電池システム付きの太陽光発電所が連系(運転・発電)を開始しました。

売電量は低圧(毎時50kW未満)ながら、蓄電池システムを用いて24時間いつでも連系しています。

場所は青森市左堰(ひだりぜき)。「左堰太陽光発電所」という名称とともに2019年5月31日から連系を開始しています。

左堰太陽光発電所外観写真



405.6kW相当のパネル



1106.88kWh相当の蓄電池を搭載したコンテナ

太陽光発電所 蓄電池システム 稼働

経緯として、

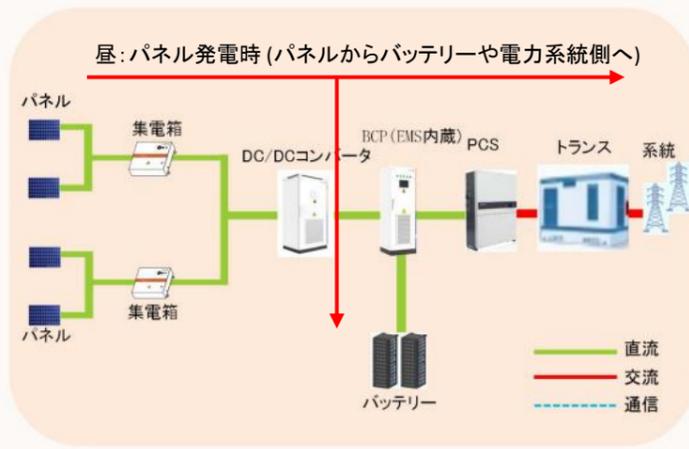
- ・高圧太陽光(50kW以上)が電力の容量制限により連系が不可能に。
- ・ただし低圧太陽光(50kW未満)なら電力との連系が可能。
- ・土地が余っているので有効活用をしたい。

という物理的な理由と、蓄電池システムを用いることにより

- ・施設は高圧に準ずるが、電力へは低圧で連系可能。
- ・ピークカット電力の回収が出来る。(蓄電池への充電に回せる)
- ・夜間でも蓄電池から電力へ連系可能。
- ・電力側のシステムの安定を図る効果が期待できる。(常に49.5kWで連系。安定供給)

との事から、弊社では左堰に蓄電システムの太陽光発電所の設置と運転を行いました。

発電経路イメージ図



航空写真(赤枠が蓄電システム)



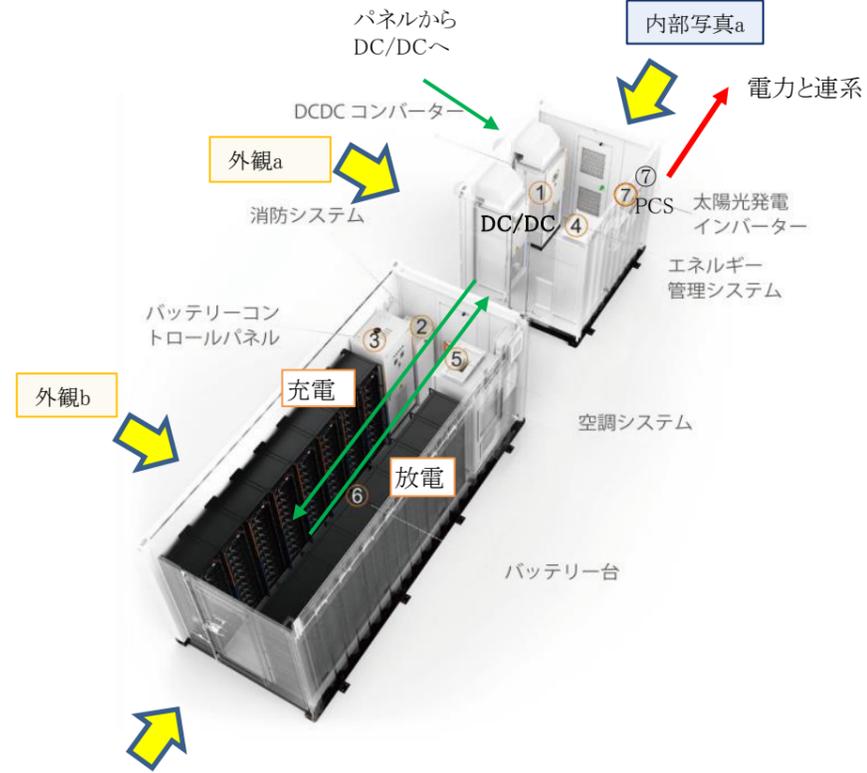
左堰太陽光発電所を空から見てみましょう。

赤枠で囲っている部分がバッテリーシステム搭載した太陽光発電所になります。

325Wのパネルが1248枚設置されていて、合計で405.6kWの電力を一度に発電可能です。

実際には49.5kWずつしか電力へは流せませんが、余った分を赤枠の右側にあるバッテリー部分に蓄えて、それを夜間に電力へ流しています。

コンテナ内部紹介



電力と連系

PCS等コンテナ(小)

外観a



PCSなど入っています

内部写真a



内部写真b

バッテリーコンテナ(大)

外観b



バッテリーシステムが入っています



バッテリー
345.9Wh × 3200個 = 1106.88kWh

コンテナ内部はこのようなになっています

大小1つずつのコンテナで構成されていて、小さい方にPCSなど、大きい方にバッテリーを格納しています。

バッテリーは345.9Whのものを3200個使用し、合計1106.88kWhもの電気を貯めておくことが出来ます。



丸喜齋藤組 HP

・住宅に関する、質問・ご相談・お問合せは電話・FAX・メール・郵便でいつでも受け付けております。

展示場 E-mail: tenjijo@marukisaito.com TEL: 017-729-8832



instagram

建てて、いい? 中島たい子 (講談社 文庫)

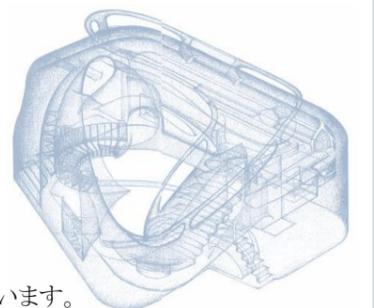


お盆を過ぎて涼しくなってきました。夏場は、暑さでぐったり、手に取ることもなかった本そろそろ……読書の秋です。

「建てて、いい?」は、30代シングル女性がアパートの階段から滑り落ちるところから始まります。このアパートからもう出たい! 結婚するところから脱出できるかも……周りの勧めもあって、お見合いした相手は、建築士でした。

ひょんな事から、家を建てることになり、いろいろと理想の家を語り合います。さて、どんな家が出るのでしょうか?

「漢方小説」・「ぐるぐる七福神」の作者が「家」をテーマにした小説です。女性一人で家を建てるワクワク感が伝わってきます。



作中に出てくる白い家
「トラス・ウォール・ハウス」 圧縮図面